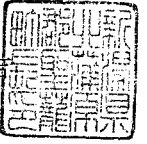


聖ふ第 923 号
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 様

聖籠町長 渡 邊 廣 吉



「今後の道路行政についての意見・提案」の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありました、標記の件について別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

新潟県聖籠町

先の通常国会での議論では、道路関連支出に職員の福利厚生費等の支出や道路関係の公益法人の組織形態が指摘されました。今後は、見直すとともに必要な組織は存置するなどの改革に取り組み、国民の信頼を得ることに努めてほしい。

また、平成21年度から道路特定財源の一般財源化が閣議決定されましたが、地方財政に影響を及ぼさないように措置するとの決定は堅持し、道路整備を中断することがないように配慮すること。この度の暫定税率の期限切れに伴い、道路整備・維持管理契約の発注に遅れをきたし、地域住民から不安を煽った経緯があったため、継続的に整備している道路については、財源充当する仕組みづくりを検討すべきと考える。

今後は、道路が果たす役割や果たしてきた事実をさらに世論に訴え、将来の少子高齢化・地域対策に対する道路づくりを明確にしていくなければなりません。その意味においては、都市部への社会資本整備のみでは無く、中山間地への産業対策や過疎対策に資するような選択と集中の基本的な考えのもと道路施策を進めてほしい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

新潟県聖籠町

○現状

本町を通過する国道113号は、町内の海岸部に形成される集落の延長3,000mを通過し、総交通量が約18,000台/日の現状となっております。

沿線住民からは、騒音・振動による苦情が後を絶たない状況であり、計画幅員の予定区域には家屋等が建ち並ぶ区間ですので拡幅に難しいのが実態となっております。

特に、当路線は日本海側から東北仙台市に繋がる物流の役割を担っている道路で、大型貨物車が多く通過する路線であります。

このため、騒音・振動の環境基準値を超えており生活環境面が懸念されております。

○課題

費用対効果面においては、家屋補償等と新設整備費を比較した場合、バイパス化の整備に取り組むべきと考えます。

バイパス化構想については、既に地域とのコンセンサスを得ており熟度も高まっております。

基礎調査の結果では交通センサスの将来予測が低いポイントであるため、事業化が難しいとの評価ではありますが、前述の家屋補償等と比較した数値及び日本海側最大の新潟東港工業地帯と東北地域を結ぶ基幹道路の位置づけや交通安全・環境対策を講じていくことが今後の課題となっております。

本町は、日本海側最大の新潟東港工業地帯と東アジアの諸国との定期コンテナ航路を有する新潟港(東港区)の背後地であります。

特に、港湾でのコンテナ取扱量の伸長は著しく、国内12位と外貿コンテナ取扱港に成長している。これは、中国をはじめとする対岸諸国の経済成長があり使い易い港湾として評価されつつあると考えます。

また、新潟園域では他の広域ブロックより産業集積が著しく、東アジア諸国との国際物流を繋げていくことでさらなる地域経済の発展が望まれることから、港及び工業地帯を結ぶ規格の高い道路ネットワークの整備が必要です。特に、日本海側の新潟・青森を結ぶ高規格道路が未整備でありネットワークの構築に向けた整備促進が必要です。

また、急峻な地形を有する新潟県内は、災害や救命に必要な道路整備も求められており、そこに住む住民の安心安全を享受させることの道路づくりを強く要望したい。